

新規事業採択時評価結果（平成18年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：鈴木 克宗

事業の概要

事業名	一般国道266号 大矢野バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	熊本県
起終点	自：熊本県上天草市大矢野町登立 至：熊本県宇城市三角町三角浦	延長	3.7km		
<p>事業概要</p> <p>熊本天草幹線道路は、熊本県熊本市と熊本県本渡市を結ぶ延長70kmの地域高規格道路であり、熊本市と県内主要都市を90分で結ぶ構想(90分構想)の実現に必要な主要幹線道路である。</p> <p>計画区間は、九州本島と天草地域を結ぶ唯一の道路であり、天草地域の玄関口である。しかしながら、交通渋滞が多発するとともに、現道の天門橋は老朽化しており、安全・安心かつ円滑な通行を確保するため道路整備を実施するものである。</p> <p>事業の目的、必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> 本区間は、天草地域と九州本島を結ぶ産業・経済・観光及び生活基盤によって極めて重要な幹線道路である。 しかしながら、国道266号の混雑は日常化しており、交通容量の向上が求められる。特に、年末年始、行楽シーズン時には、五橋入口交差点を先頭に約3～5kmの渋滞が見られる。また、本渡市から熊本市まで約115分用しており、第3次救急医療施設等へのアクセス向上が求められている。また、本地域は災害等の多発する地域であり、国道266号は唯一の救援物資を輸送する道路であるものの、通行規制区間でもあり、災害の代替ネットワークとして本区間の整備が必要である。 					
全体事業費	185億円（暫定）	計画交通量	16,600台/日		
<p>事業概要図</p> <p>熊本天草幹線道路 L=約70km H6.12月 計画路線指定</p> <p>熊本県施工 L=約38km 国施工 L=約32km</p> <p>調査区間 L=約4km H6.3月指定 事業中 L=5km H9.9月指定 事業中 L=5km H9.9月指定 供用中 L=3km H4.9月 調査区間 L=約6km H10.12月指定 調査区間 L=約12km H10.12月指定 調査区間 L=約6km H10.12月指定 事業中 L=4km H10.12月指定 調査区間 L=約4km H10.12月指定</p> <p>凡例 供用中 緑色 事業中 青色 調査区間 点線 未指定区間 白丸 新規事業化 赤色</p> <p>平成17年3月末現在</p>					

事業評価結果

費用対便益	B/C	2.9	総費用：172億円 （事業費：150億円 維持管理費：22億円）	総便益：506億円 （走行時間短縮便益：418億円 走行費用減少便益：64億円 交通事故減少便益：24億円）	基準年 平成17年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=2.7 (交通量-10%)	B/C=3.2 (交通量+10%)	
		事業費変動	B/C=3.2 (事業費-10%)	B/C=2.7 (事業費+10%)	
		事業期間変動	B/C=3.1 (事業期間-20%)	B/C=2.8 (事業期間+20%)	
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠	
		渋滞対策	◎	交通容量不足による慢性的な渋滞が解消される。 【渋滞損失時間の改善】約151万人時間/年 → 約125万人時間/年 【1kmあたり渋滞損失時間】約6.5万人時間/km年（現況） 熊本県平均：約1.8万人時間/km年（約3.6倍） 全国平均：約2.0万人時間/km年（約3.3倍） 【渋滞度曲線】センサス区間別渋滞損失時間では熊本県内の上位2割(55位/717区間中)に含まれる 【その他の特徴】通過交通が排除され、現道の混雑が緩和される	
	事故対策	○	通過交通が排除され、事故件数の減少が見込まれる。 【死傷事故率】約47.3件/億台キロ（現況）（死傷事故率比（県内平均比）1.0（現況）） 熊本県平均：約47件/億台キロ（約1.0倍） 全国平均：約119.9件/億台キロ（約0.7倍） 【事故率曲線】センサス区間別死傷事故率では、上から169番目(2割区間外) 【その他の特徴】通過交通が排除され、現道の安全性が向上する		
	歩行空間	—	特筆すべき事項なし		
	社会全体への影響	住民生活	—	特筆すべき事項なし	
		地域経済	◎	年間観光客約540万人に対して、県外客が約200万人。所要時間の短縮による観光客数の増加。	
		災害	◎	・現道の国道266号の天門橋は、熊本と天草を結ぶ唯一の道路である。（緊急輸送道路） ・しかしながら、震災点検対象箇所であり、事前通行規制区間の指定。	
		環境	○	自動車交通の通行性の向上によるCO ₂ の削減。2,927 t/年削減	
	地域社会	—	特筆すべき事項なし		
	事業実施環境	○	平成16年度に、検討委員会（PI）を実施し、ルート及び概ねのインターチェンジ位置を取りまとめた提案書提出。		

関係する地方公共団体等の意見

本路線は、天草地域と熊本都市圏を結ぶ唯一の道路であることから、救急医療、農水産物等の物流、観光振興等に資するものとして、その整備を強く要望されており、熊本・天草間幹線道路整備促進期成会（6市9町）より早期整備の要望を受けている他、多くの団体等から同様な要望を受けている。

事業採択の前提条件

- 便益が費用を上回っている。
 - 円滑な事業執行が整っている。
- （平成16年度に、熊本天草幹線道路（三角～大矢野間）検討委員会によるPI活動を実施し、「概ねのインターチェンジ位置」、「ルート帯」について、とりまとめが行われている。）

採択の理由

- ・費用便益比が2.9と、便益が費用を上回っていると同時に、検討委員会（PI）を実施し、住民の合意形成は図られ、事業採択の前提条件は確認できる。
- ・当該箇所の現況渋滞損失時間は高く、渋滞対策の必要性・効果は高いと判断できる。
- ・九州本島と天草地域を結ぶ国道266号天門橋は、昭和41年に供用された橋梁であるが、交通容量不足とともに、老朽化しており、天草地域における安全・安心を確保するライフラインとしての基盤施設として、本計画区間の整備の必要性は極めて高い。
- ・以上より、本事業を採択した。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。